

経営比較分析表（平成28年度決算）

神奈川県川崎市 井田病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	300床以上～400床未満	自治体職員 民間企業出身
経営形態	診療科数	DPG対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	37	対象	ド透I 訓ガ	救臨が輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
1,474,167	36,071	非該当	7：1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

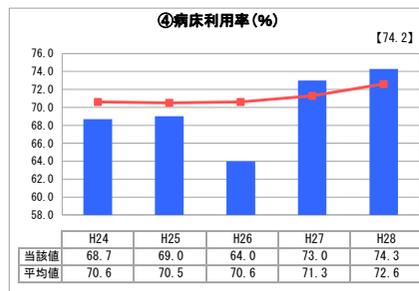
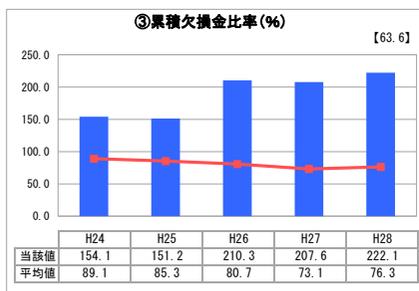
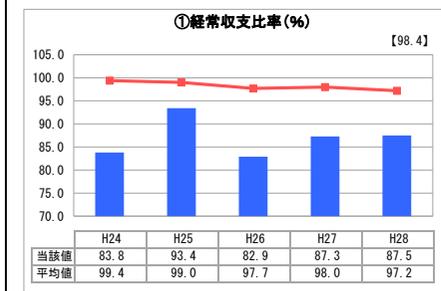
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
343	-	40
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	383
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
343	-	343

グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 平成28年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性

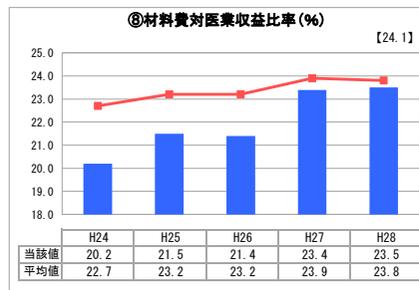
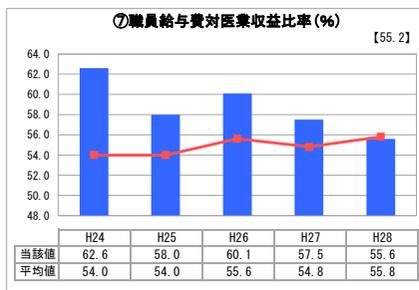
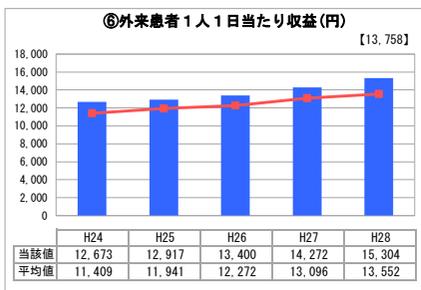
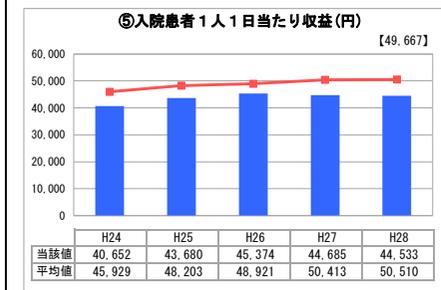


「経常損益」

「医業損益」

「累積欠損」

「施設の効率性」



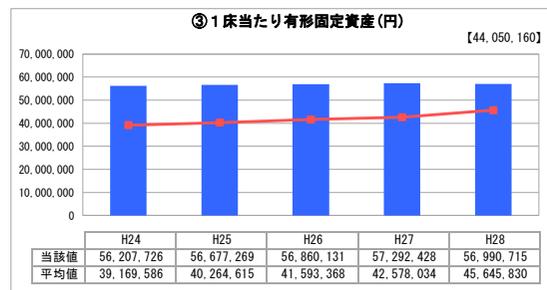
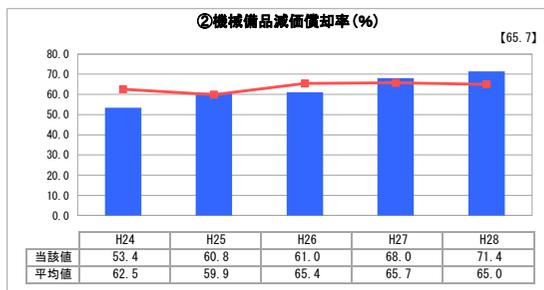
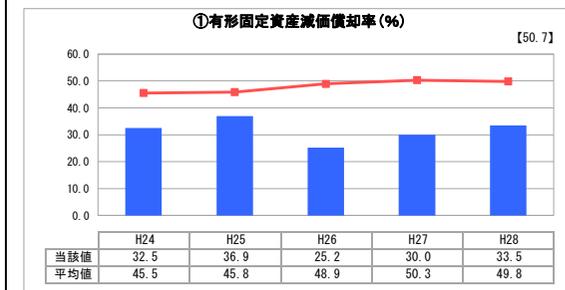
「収益の効率性①」

「収益の効率性②」

「費用の効率性①」

「費用の効率性②」

2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」

「機械備品の減価償却の状況」

「建設投資の状況」

I 地域において担っている役割

南部地域の中核病院・地域がん診療連携拠点病院として、増大するがん等の成人疾患医療、救急医療、緩和ケア医療を担うほか、市内唯一の結核病床を有する病院として、結核患者への透析の対応もを行っている。
また、臨床研修指定病院等として医師の育成を行うなど、地域医療水準の向上に寄与している。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①②当院は平成26年度まで建替え工事を実施しており、整備期間中の病床縮小や整備後の減価償却費、委託費の増加などに伴い、経常収支比率、医業収支比率とも低位で推移している。
③累積欠損金比率は、会計基準の見直しによる退職給付引当金等の一括計上のため、平成26年度から大幅に増加している。
④病床利用率は、平成27年度の全面開院により稼働病床数が増加したことにより、増加している。
⑤⑥医療の質の向上と地域医療連携の推進などにより、外来単価は継続的に上昇しているが、入院単価は手術件数の減少もあり横ばいである。
⑦職員給与費対医業収益比率は、全面開院で医業収益が増加したことにより、減少している。
⑧全面開院に伴う稼働病床数の増加や、高額薬剤の増加に伴い、材料費対医業収益比率は上昇している。

2. 老朽化の状況について

①井田病院再編整備事業は平成21年度に着工し、平成24年度に一部開院、平成27年度に全面開院していることから、有形固定資産減価償却率は平成24年度以降、類似病院と比べて低位で推移している。
②機械備品減価償却率は、建替え前から使用している機械備品も相当数あるため、類似病院と概ね同程度で推移している。
③1床当たり有形固定資産は、類似病院と比べて高い値になっているが、これは都市部における建築単価が高いことが一因となっているものと考えられる。

全体総括

○本市では、平成27年度に新公立病院改革プラン（「川崎市立病院中期経営計画2016-2020」）を策定し、経営改善に取り組んでいる。
○収益面では、今後も医療の質を高め診療単価を向上させるとともに、地域医療連携の推進や救急受入体制の強化などにより新規入院患者数を確保していく必要がある。
○費用面では、材料費や委託費などの経費や、減価償却費の負担が大きいことから、委託仕様の見直しや入札手法の見直し、直営2病院での共同購入など経費削減の取組を強化していく必要がある。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。